

学校事務 スキル磨く

教員の負担軽減

公立学校の学校運営をスムーズに進めるため、財務や総務に詳しい事務職員の養成に力を入れる自治体が増えてきた。先輩職員の経験を学ぶ機会を設けたり、インターネットで研修を受けさせたりしてスキルを高めている。事務職員が学校運営に積極的にかかわることで、教員の負担軽減につながるなどの期待もある。



校長(左)と打ち合わせをする事務職員の益子さん(千葉市緑区の市立小谷小学校)

■他校の仕事見学 ■ネット通じ研修

「視聴覚室のランプが壊れ、ラジカセで代用しています。来年度に買い替えませんか」。千葉市緑区の市立小谷小学校の事務職員、益子さん(29)は先月中旬、宮元純子校長(59)に分厚い備品リストを見せた。次年度の物品購入を巡って校長や教頭と協議を重ねている。

千葉市は5〜7年目の事務職員が他校のベテラン職員の仕事を学び見学

する「学校訪問研修」を2013年度にスタートさせた。益子さんも昨年11月に参加。町内会や保護者会に積極的に出席しているという経験を聞き「学校運営には外部の意見を聴くことも重要だ」と感じたという。

学校の予算編成では「広い視野でお金の使い道を考えている」とい、昨年度は1年生向けとして提案した低い鉄棒の設置が採用された。着任3年目を迎え、宮元校長は「今やなくてはならない存在」と信頼を寄せる。三重県教育委員会はインターネットで視聴できる事務職員向けの研修講座を約10種そろえる。財務管理など事務的な内容のほか、校長らと連携して学校運営を進める手法を紹介する講座もある。

ただ「事務」と「教育」という縦割り意識もあって学校運営に参画するとは少なかった。しかし、いじめや不登校の問題が深刻化したことを受け、中央教育審議会(中教審)が1998年以降、事務職員を活用して学校の組織力を強化するようたびたび提言。各自治体で研修内容を見直すなどの取り組みが広がった。

宇都宮市教委は数校の事務職員を1グループにまとめ、毎月会議を開く仕組みを12年に整えた。多くの学校では事務職員が1人しかおらず「仕事の悩みを相談する相手がいない」との声は多い。市教委は「仕事のノウハウも伝授され、学校をより立てたいという機運が高まった」と話す。事務職員を務めた経験がある兵庫教育大の日渡円教授(57)は「現在の学校は複雑で多様な問題を抱えており、教員だけでなく事務職員の能力も問われている。体系的な研修内容を開発して、マネジメント能力の高い職員を養成することが必要だ」と指摘している。

学校、事務職磨く

教員の負担軽減に期待 **社会**



事務職員が他校のベテラン職員の仕事を学び見学